



NRI 学生小論文 コンテスト 2011

日本を
元気に
する



“日本を元気にする”

NRI学生小論文コンテスト2011

野村総合研究所 (NRI) は、企業理念として

「未来創発—— Dream up the future.」を掲げています。

「創発」とは、多様な才能やアイデアが互いに作用しあい、
新しい価値を生み出し、全体として高まっていくことです。

この「NRI学生小論文コンテスト」は、

次代を担う若い皆さんとともに未来の社会を創発していこうと、
2006年から行われています。

長年の景気低迷に加え、東日本大震災や原子力発電所の事故により、
日本の閉塞感がますます高まる中、今回のコンテストでは、

“日本を元気にする” 斬新で力強い提案を募りました。

この冊子では、入賞論文をはじめ、審査委員の講評や応募者の感想、
コンテストを応援したNRI社員の活動などをまとめています。

日本を元気にするために、
私たちは考えた。

日本に住む一員として、
何より思いやりを
大切にする。

お年寄りの笑顔が
絶えない国を
目指します。

新しい「日本型」社会の
しゅきを世界に発信する。

世界の中で
日本を輝かせるためには
想像力が不可欠！

外国人を受け入れて
多様性のある
強い社会をつくる。

人材こそ日本の財産！

新しい社会の
インフラを構築して
世界をリードする。

震災復興に向けて
自分にしか出せない
アイデアを考える！

コミュニティーを中心に
地域社会を
活性化したい。

日本人が気づいていない
日本の魅力、強みを
世界に伝えたい。

高齢者限定の
派遣会社を設立する！

社会性の高い
エリートの教育を！

コミュニケーション能力
を向上させる教育で
日本を変える。

世界的な課題の
解決策を提案して
日本の存在感を
高める。

震災後の都市モデル
について、自分の
専門性を活かして
提案する！

日本を 元気 にする



目次

- 2 日本を元気にするために、私たちは考えた。
- 6 NRI 学生小論文コンテスト2011「日本から未来を提案しよう！」
- 7 募集要項
- 8 審査結果
- 12 コンテストへの想い

- 13 **入賞論文 大学生の部**
- 14 大賞 日本型「もったいない社会」の提案——農業+交通インフラという持続可能都市モデル 波利摩 星也
- 23 優秀賞 「移民送出・受入社会」——多様性と日本人の誇りが共存する強い日本へ 杉野 浩史・岡田 光太郎
- 30 優秀賞 日本型・超高齢社会の創造——Aging in Placeという考え方 堀金 美来
- 38 特別審査委員賞 脱「成長」国家ニッポンの提案 高林 龍

- 43 **入賞論文 留学生の部**
- 44 優秀賞 世界との共同集団を作る——課題解決を輸出する社会を目指せ 李 晨君
- 51 特別審査委員賞 日本コンテンツが作る日本発「新社会」 張 慶在

- 57 **入賞論文 高校生の部**
- 58 大賞 ふたたび大地に立つ——そのために私がやれること 伊藤 愛里咲
- 62 優秀賞 思考回路のイノベーションで貧困を吹き飛ばせ——援助からwin-winビジネスへ 岩沢 壮太
- 66 優秀賞 NEW-YEAR—2025—日本が進化する年 鄭 善治
- 69 特別審査委員賞 おじいさん、おばあさん集まれ! 千島 奈々

- 73 **募集告知から審査、そして表彰まで**
- 74 募集告知
- 76 審査
- 78 2次審査会
- 82 論文発表会
- 84 授与式
- 86 コンテストへの応募動機
- 90 NRI 社員による審査の感想
- 92 NRI 社員のコンテスト告知活動
- 94 おわりに
- 95 記事掲載報告

NRI 学生小論文コンテスト2011 「日本から未来を提案しよう！」

野村総合研究所(NRI)は、「未来創発—Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。そうしたNRIの社会的責任の一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本の将来に目を向け、考える機会を持っていただこうと、2006年から「NRI学生小論文コンテスト」を行っています。

6回目となった今回は、学生の皆さんに、社会を担う一員となったとき、何をしたいのか、また何ができるのかを具体的に思い描いてほしいと考え、約14年後となる「2025年」をテーマの軸にしました。

また、長年の景気低迷に加え、2011年3月に東日本大震災や原子力発電所の事故が起き、日本の閉塞感はますます高まりました。しかし、そのようなときだからこそ、前向きな意志を持つことが重要と考え、「日本を元気にする」という言葉を前面に出しました。

本冊子は、日本全国から寄せられた1,037論文の中から、NRIグループ社員による1次審査を経て、ジャーナリストの池上彰さんとノンフィクションライターの最相葉月さんを特別審査委員に迎えた2次審査会で選出された入賞論文10点と、選出までの過程をまとめたものです。

募集要項

“日本を元気にする”
斬新で力強い提案を。

大学生の部 テーマ

2025年、新しい “日本型”社会の提案

応募資格：日本の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)に在籍している27歳以下の学生、個人またはペア。ペアの相手は留学生の部、高校生の部の応募資格者でも可。

字数：4,500～5,000字 *別途400字程度の要約を添付。

賞：[大賞1名]賞金50万円、[優秀賞若干名]賞金25万円、[佳作若干名]賞金5万円

留学生の部 テーマ

2025年、新しい “日本型”社会の提案

応募資格：日本の大学院、大学、短大、高等専門学校(4～5年)に在籍している30歳以下の、留学生の個人またはペア。ペアの相手は留学生の部の応募資格者に限る。

字数：4,500～5,000字 *別途400字程度の要約を添付。

賞：[大賞1名]賞金50万円、[優秀賞若干名]賞金25万円、[佳作若干名]賞金5万円

高校生の部 テーマ

2025年の日本を担う わたしの夢

応募資格：日本の高校、高等専門学校(1～3年)に在籍している、学生の個人またはペア。ペアの相手は高校生の部の応募資格者に限る。

字数：2,500～3,000字 *別途200字程度の要約を添付。

賞：[大賞1名]賞金30万円、[優秀賞若干名]賞金15万円、[佳作若干名]賞金3万円

日本を
元気に
する

※論文は日本語で作成してください。
※論文は自作で未発表のものに限ります。
※テーマをそのまま論文タイトルとせず、独自のタイトルを必ずつけてください。
※3名以上のグループでの応募は審査対象外となります。

審査結果

入賞者の皆さんおめでとうございます！

入賞

大学生の部 テーマ 「2025年、新しい“日本型”社会の提案」

大賞 **日本型「もったいない社会」の提案**
—— 農業+交通インフラという持続可能都市モデル
波利摩 星也 さん 東京理科大学大学院 工学研究科修士課程1年

優秀賞 **「移民送出・受入社会」**
—— 多様性と日本人の誇りが共存する強い日本へ
杉野 浩史 さん 早稲田大学 国際教養学部4年
岡田 光太郎 さん 早稲田大学 法学部3年

優秀賞 **日本型・超高齢社会の創造**
—— Aging in Placeという考え方
堀金 美来 さん 関西大学 法学部4年

特別審査委員賞 **脱「成長」国家ニッポンの提案**
高林 龍 さん 慶應義塾大学 法学部2年

留学生の部 テーマ 「2025年、新しい“日本型”社会の提案」

大賞 該当なし

優秀賞 **世界との共同集団を作る**
—— 課題解決を輸出する社会を目指せ
李 晨君 さん 東京大学大学院 経済学研究科修士課程1年

特別審査委員賞 **日本コンテンツが作る日本発「新社会」**
張 慶在 さん 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院博士課程1年

高校生の部 テーマ 「2025年の日本を担うわたしの夢」

大賞 **ふたたび大地に立つ**
—— そのために私がやれること
伊藤 愛里咲 さん 宮城県仙台第三高等学校2年

優秀賞 **思考回路のイノベーションで貧困を吹き飛ばせ**
—— 援助からwin-winビジネスへ
岩沢 壮太 さん 島根県立隠岐島前高等学校1年

優秀賞 **NEW-YEAR—2025—日本が進化する年**
鄭 善治 さん 神戸朝鮮高級学校2年

特別審査委員賞 **おじいさん、おばあさん集まれ！**
千島 奈々 さん 帝塚山高等学校1年

佳作

(氏名の五十音順)

大学生の部 テーマ 「2025年、新しい“日本型”社会の提案」

Japan as 'Smarter Nation' —— 地域コミュニティのモデル・ケースを提示し、
高齢社会の最適化をリードする国家としての日本を実現するイノベーション戦略
上田 智洋 さん 東京大学大学院 工学系研究科修士課程2年

都内に潜む買い物弱者を救済するために
海老原 航 さん 日本大学 商学部3年
宮本 歩 さん 日本大学 商学部3年

一人一人が「考える国」 —— 「考えること」を活性化させるためのSNSとコミュニケーションを目指して
金 由佳 さん 東京工芸大学 芸術学部メディアアート表現学科4年

エネルギー新時代へ、付加価値を生み出せる社会を目指して
—— グローバル戦略向上のための独自性のある地域社会の役割
佐藤 亮介 さん 東北大学 工学部3年

ITSの導入と普及
長沼 龍生 さん 東海大学 教養学部3年

「自律成長型」日本社会を目指す成長戦略

古嶋 十潤 さん 京都大学 法学部5年

震災復興と経済成長を両立させる「日本型スマートシティ」の可能性

——日本の強みを活かし日本の未来を切り開く

増田 侑祐 さん 立命館大学 情報理工学部4年

留学生の部 テーマ 「2025年、新しい“日本型”社会の提案」

新興国発展の模範国へ——日本の礼儀の力と起業家制度の向上

ウィル チャン さん 東北大学大学院 工学研究科修士課程2年

共同体意識と自由な意見交換が共存する
「日本型スマートコミュニケーション社会」の構築

——日本の共同体意識と先端のコミュニケーション技術を融合する

金 沂洙 さん 立命館アジア太平洋大学 国際経営学部3年

千 叡智 さん 早稲田大学 国際教養学部4年

日本の唯一の資源 “human resources” 育成

荘 麗氷アガサ さん 立命館大学大学院 言語教育情報研究科修士課程2年

2025年、多文化共生で新文化統合

朴 興辰 さん 立命館大学 経営学部3年

自然のある生活環境——生活環境を改善する方法を探す

彭 岑婷 さん 聖学院大学 政治経済学部1年

高校生の部 テーマ 「2025年の日本を担うわたしの夢」

世界をつなぐ——もう一つのふるさとの未来を信じて

飯島 至乃 さん 本庄東高等学校2年

命の授業

石原 桃香 さん 埼玉県立川越女子高等学校1年

私たちの創造する未来

大田 恵里圭 さん 星美学園高等学校2年

未来への課題

上岡 彩乃 さん 横浜市立ろう特別支援学校2年

私とiPS細胞と絶滅危惧種

小杉 茉由佳 さん 西宮市立西宮高等学校1年

社会保障制度問題を見直すわたしの夢

小林 由奈 さん 愛知県立愛知商業高等学校3年

建築で伝える日本の技術

堺 由輝 さん 東京都立小石川中等教育学校4年(高等学校1年相当)

アジアの相互理解のために

澤山 友佳 さん 女子学院高等学校2年

世界に売り込め！世界に誇るオンリーワンの日本の技術力

——目指せ、世界に笑顔をもたらす商社マン

地引 洋 さん 早稲田高等学校2年

IBDを恐れない社会へ

高椋 翼 さん 福岡県立三池高等学校2年

財務官僚という夢

武原 宇宙 さん 福岡県立修猷館高等学校2年

少子化社会からの脱却——ネットとリアルの融合という処方箋

津田 沙也香 さん 学習院女子高等科3年

医者増殖プロジェクト——命を繋ぐ喜びを

中村 真衣 さん 茗溪学園高等学校1年

コミュニティを回復するために

中村 美咲 さん 中央大学高等学校3年

世界へ発信するための教育

難波 未菜 さん 広島なぎさ高等学校1年

私たちに出来る事

星山 紗輝 さん 京都府立須知高等学校3年

福祉環境——障害者と高齢者が安心できる街づくり

松下 悠 さん 清教学園高等学校2年

縁を結び、心を結ぶ、国際化

山内 遼 さん 岡山県立岡山朝日高等学校1年

超高齢社会を支える総合医

吉池 優希 さん 長野県長野高等学校1年

論文の応募概況

「NRI学生小論文コンテスト2011」には、大学等54校、高校73校から合わせて過去最多となる1,037本の応募がありました。部門別の内訳は、大学生の部に123本、留学生の部に41本、高校生の部に873本です。なかには、一人で内容の異なる2本の論文を応募した学生もいました。

今回から実施した学生同士のペアによる応募は30組ありました。部門別の内訳は、大学生の部に15組、留学生の部に2組、高校生の部に13組です。なかには、異なる大学に籍を置く大学生同士や留学生同士による論文や、大学生と留学生とのペアによる論文もありました。

コンテストへの想い

論文執筆は論理的思考を養うもの

NRI取締役会長
藤沼 彰久

NRIは、コンサルティングやシステム開発を行っている会社です。未来を予測し、社会に向けてさまざまな提言も行っています。NRIらしい社会貢献活動として、未来を担う人材の育成に取り組み、「NRI学生小論文コンテスト」をスタートし、今年で6回目を迎えました。応募数は年々増加し、今年も優れた論文が多かったと感じています。インターネットの普及により、情報やデータを集めるのは比較的容易な時代になりました。しかし、それらをロジックでまとめて、自分の言葉で論文に仕上げていくには、論理的な思考が不可欠です。今後も、若い世代に、未来について考え、論理的思考を養う機会を提供していきたいと考えています。



未来は若い皆さんの 手の中に

「NRI学生小論文コンテスト」特別審査委員
ジャーナリスト
池上 彰さん

毎年、若い世代から勉強させてもらおうような気持ちで審査に臨んでいます。このコンテストは、大学生らしい新しい視点や、高校生らしい斬新なアイデアに触れられる素晴らしい機会です。今年は、3月11日の東日本大震災後に一層閉塞感が強まった日本をどうしていくべきかという問題意識を感じさせる論文が多く、とても頼もしく感じました。日本の未来は、若い皆さんが担っていくもの。問題意識を持つことを忘れずに、未来を見据えてしっかりと歩んでほしいと思います。



自分の可能性を 探る機会の一つ

「NRI学生小論文コンテスト」特別審査委員
ノンフィクションライター
最相 葉月さん

コンテストの審査委員を務めるのも、今年で3回目になりました。高校生や大学生、留学生が、自分のビジョンを表明する場にかかわることは、私自身にとっても非常に刺激になります。応募論文からは、14年後の未来は、社会の中核となる自分たちがつくっていかねばいけないんだという自負が伝わってきて、たいへん心強く感じました。このコンテストに参加することは、社会に対して何ができるのか、自分の可能性を探る機会の一つ。彼らが活躍する未来がとても楽しみです。

